

「経済敗戦」から日本を再建する

暑い日が続きますが、いかがお過ごしでしょうか。

「経済敗戦」。この30年の日本経済を振り返るとこの言葉が浮かんできます。前号で指摘したように日本は世界の成長から取り残されて、いつの間にか安い国になってしまいました。

では、日本をどう再建するのか。「人づくり」に国が全力で取り組むことから始めるべきです。教育予算、科学技術予算を大幅に増やすことです。意思があれば教育を受けられる国に変える。教育の質を上げる。教師をあこがれの職業にかえる。経済的事情によって教育の機会が失われないうようにする。給付型奨学金を増やし多額の借金を背負わなくても社会に出られるようにすることです。

◇1990年一般会計予算 66・2兆円

◇2023年一般会計予算 114・4兆円

30年で予算は約50兆円増えましたが、社会保障費と国債費がほとんどで、文教・科学技術予算はほぼ横ばいです（5.1兆円から5.4兆円）。

日本政府は人材育成に熱心ではなかったのです。経済格差が教育格差を加速させてきたのです。結果として日本の競争力が低下し、国力が落ちたのです。

しかし、これは本来の我が国の姿ではありません。「教育が国の礎」であることは多くの日本人が感じていることです。民間だと採算が合わない、すぐには結果がでないからこそ、国がやらなければならぬのです。

希望はあります。経済敗戦の原因は、日本人の勤勉性が変わったわけではなく、失政にあります。30年ほとんど政権を担った自民党の政策を変えれば良いのです。

経済敗戦を真正面から受け止め、日本再建を始めようではありませんか。